



地名の不思議

富山大学人文学部 准教授 大西 宏治

『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(以下、地図帳)をみると、日本全国にさまざまな地名があることがわかります。47都道府県名から始まり、市町村名、河川や平野の地名まで、数多くの地名があります。児童はいろいろな地名を地図帳から探し出して楽しんでいるかもしれません。今回は地名の不思議について話を進めていきます。

1. 地名の楽しみ方

みなさんのクラスには地図帳を丹念に確認して、いろいろな地名を見つけ出してくる児童はいませんか。地図帳の中にある知らない地名をみると、どんな場所なのかを想像するだけでワクワクする児童がいるかもしれません。知らない地名を知るといのは地名の楽しみ方の一つです。でも、地名を知識として持っているだけではもったいないです。地名を楽しむ方法として、その場所の由来を知るといものがあります。地名からその由来を推測してみるのも楽しいものです。地名は人間が大地につけた名称です。そして、名称には意味があります。地名がどのように生まれたのかを考えるのは私たちが暮らす大地を理解するうえで重要なことです。

2. 地名由来のおもしろさ

地名の由来にはさまざまなものがあります。まず、地形などの自然が由来となっている地名があります(自然地名)。また、歴史や経済、文化などがかわってできた地名があります(文化地名)。文化地名には農業や鉱業、窯業などが起源となった産業地名、物産の取り引きがなされる場所の商業地名、宗教地名、人名地名、交通地名などがあります。このように地名の起源はさまざまです。

いくつか具体的な地名の由来をみてみましょう。

1) 自然地名「島」

「島」という地名についてみてみましょう。島は海や湖に浮かんでいるように見えるものという

イメージがあると思います。しかし、地形図などを丹念に見ると、内陸部にも「島」とつく地名があります。具体例として石川県白山市の手取川扇状地にある島集落を見てみましょう(図1)。この地域を流れる手取川はかつて暴れ川として知られ、洪水が繰り返し発生していました。図1にある地名をみると漆島町や明法島町、向島町、中島など、たくさんの「島」がつく地名があります。島とつく地名の集落の多くは氾濫するたびにまるで島のように浮かび上がって見えていたのでしょう。洪水で出た土砂が堆積して、周囲よりわずかに高い土地(微高地)ができます。そこに集落ができ、島とつく地名が生まれたのでしょう。

このように自然地名は災害を考えるのにも有効です。かつて低湿地だった場所には「池」や「沢」、「沼」などの地名がついたりすることが知られています。ただ、この地名があるから災害に脆弱だとか、この地名がついていないから大丈夫であるとは一概にはいえません。地名の由来を調べてみ

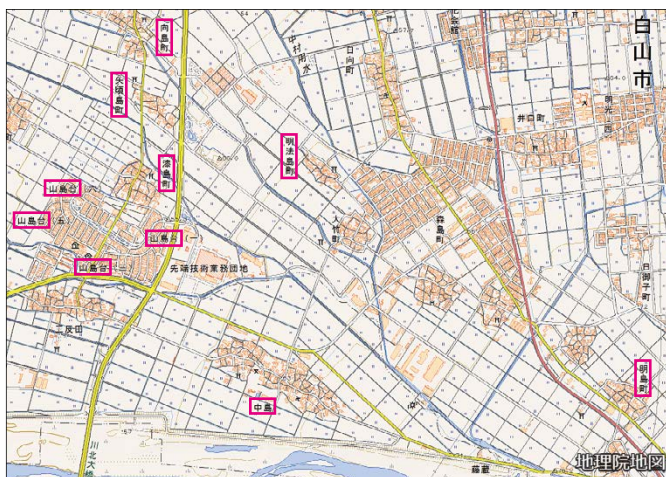


図1 石川県白山市(手取川扇状地付近)の島集落(地理院地図)



図2 銀座のつく地名（青い旗）（地理院地図）

ないと、自然環境と関係しているのかははっきりしませんので、個別に調べる必要があります。

2) 商業地名「銀座」

銀座の語源は銀貨の鑄造所です。駿府（現在の静岡市）にあった銀座が1612年に現在の東京の銀座に移され、「銀座」は成立しました。ちなみにもともとあった静岡の銀座は現在では両替町という地名です。京都市にも銀座があります。ここも鑄造所でした。しかし全国各地にある銀座は、鑄造所が起源になっているとは限らず、にぎわう東京の銀座にあやかろうとつけられた地名が多くあります。商店街などに銀座の名前がつけられているのは北海道の北見市や根室市から、沖縄県の石垣島まで存在するそうです¹⁾。地理院地図を使って地形図上の地名に銀座がついているものを検索してみました（図2）。北海道から九州まで広く存在することがわかります。みなさんの暮らしているまちの銀座は何が由来になっているのでしょうか。東京の銀座にあやかろうとしたのでしょうか、それとも銀の鑄造所だったのでしょうか。学校図書館などにある市町村史を開いて調べてみてはいかがでしょうか。

3. 都道府県名の成り立ちを探る

都道府県名の由来を調べてみると興味深いものもあります。谷川彰英著『47都道府県・地名由来百科』（丸善出版）をもとに北海道の由来をみてみましょう。

北海道は2018年に命名150年を迎えました。名前はどのようにして決まったのでしょうか。命名した人は松浦武四郎という伊勢（現在の三重県）出身の探検家です。彼は1845年に蝦夷地（現在の北海道）に渡り、アイヌの暮らしをよく観察していました。明治に入り、廃藩置県の際に北海道の地は「道」とすることに決まります。命名に際して松浦から6つの候補があがりました。「日高見道」、「北加伊道」、「海北道」、「海島道」、「東北道」、「千島道」です。松浦は「北加伊道」を熱心に勧めたそうです。アイヌの言葉で自らの国のことを「カイ」といい、その音に漢字を当てたのが「加伊」です。結局、「加伊」は「海」に置き換わりましたが、アイヌへの松浦の尊敬の念を感じることができます。

4. 地名から地域に関心をもつ

地名は人が決めたものです。ですから、その場所に関係する意味をもっていることが多いです。各地にいる郷土史に詳しい人たちは、その地名の成り立ちをよく調べていますし、各市町村で作成した市町村史などには由来に言及しているものがあります。また、市町村図書館や学校の図書室などに『角川日本地名大辞典』があるかもしれません。この辞典は都道府県別の分冊になっており、細かな地名の歴史などもわかります。学校区内の地名やその地区の歴史も調べることができます。地名に興味をもった児童にこの辞典を調べることを勧めてもよいと思います²⁾。先生方も学校の住所の地名をこの辞典で調べると発見があるかもしれません。また、3年生の身近な地域や市のよすの学習で、地名について調べる活動を取り入れてはいかがでしょうか。地名を入り口に自分の暮らすまちや市町村、都道府県に興味をもつ児童が増えることを願っています。

- 1) 吉田金彦／糸井通浩編（2004）：『日本地名学を学ぶ人のために』世界思想社
- 2) この辞典は一般向けの書籍のため、児童だけで意味を理解するのは難しいところもありますので、大人のサポートが必要です。